

氏 名	マツ シタ ホウ フウ 松 下 寶 楓
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	工 博 第 2642 号
学位授与の日付	平 成 18 年 3 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	工 学 研 究 科 建 築 学 専 攻
学位論文題目	Structure of Mixed - use Built Environment for Multi - ethnic Interaction in the Wanchai District, Hong Kong (香港湾仔地区における多民族交流のための混合用途都市環境の構造に関する研究)
論文調査委員	(主 査) 教 授 宗 本 順 三 教 授 門 内 輝 行 教 授 鉾 井 修 一

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、少数民族が集住地区を形成するのではなく、混合用途地区や混合用途ビルに多民族が分散して混住している構造をもつ香港の湾仔地区を対象として、多民族の相互交流と都市空間の構造を分析したものである。論文は全6章から構成されている。

第1章では、都市に移住してきた少数民族がかたまって集住地区を形成するとされてきた少数民族の都市移住者に関する従来の知見に対して、混合用途ビルや混合用途地区に多民族が分散して混住している構造をもつ香港の湾仔地区を研究対象とする意義を述べている。つぎに異なる民族性を有する人々の相互交流とその多民族の相互交流が生じる都市空間の特徴や、その構成要素が相互交流に果たしている役割を明らかにすることを本論の目的としている。“activity system”と“setting system”の関係についての Amos Rapoport の環境行動論に基づいて、都市空間の物理的な環境のみではなく、人々の複雑な相互交流関係によって空間構造を説明する研究方法について述べている。

第2章では、湾仔地区にある20棟の混合用途ビルディングの居住者を対象にして、39の少数民族の自国民との交流から多民族間の交流を時系列に沿ってヒアリング調査し、交流ネットワークが生まれる空間と多民族の相互交流の特徴を明らかにしている。多民族の日々の相互交流は3パターンの発展プロセスに分けることができ、5種類の場所において多民族は相互交流していた。これらの5種類の場所は交流の「トリガー」、「キャリアー」と「レシーバー」になる連続的な関係がある。これらの交流分析から、湾仔地区の居住地は必ずしもそこに居住する少数民族の交流場所ではないことを示して、西洋の都市における少数民族の居留地の形態とは異なることを明らかにしている。

第3章では、湾仔地区の公共の場で60名の少数民族を対象に、多民族間の交流をヒアリング調査し、同じ地区や同じ種類の場所において相互交流する少数民族の間を繋ぐことにより、交流の生まれる場所の結びつきの強さと広がりをもつ2分法ネットワークモデルの構造として明らかにしている。ネットワーク構造により、類似した民族や必ずしも同じ民族でなくても職業などの社会的属性が類似する少数民族の集団では相互交流が生じること、湾仔地区における7種類の交流場所の関連性を明らかにしている。

第4章では、湾仔地区の25棟の混合用途ビルの少数民族の居住者を対象に、建物内部の共用部分における隣人の相互交流行動とビル内部の隣人関係を調査して、長くオープンな廊下の平面形状や互いに隔てられた昇降口コアは、ビル内の隣人同士の相互交流をさまたげることを明らかにしている。20棟の混合用途ビルで10人の中国人と29人の少数民族の居住者に詳細なヒアリング調査を行い、ビル内の居住者間の交流が階段やコア付近で行われること、その一方で特定の待遇を受ける長期居住者と新規に移住してきた居住者の交流が生まれにくいことを示している。これらの調査から、混合用途の構成割合や異なる職業の構成割合、賃借人の高い回転率が隣人交流を妨げることを明らかにしている。

第5章では、典型的な混合用途ビルで39人の中国人と5人の少数民族の居住者を対象にヒアリング調査を行い、住戸をノード、住人同士の往来関係をリンクとする隣人ネットワークモデルで、混合用途ビルと多民族の隣人相互交流の関係を示し

ている。近接マトリックスと階層クラスター分析を用いて、隣人相互交流は5サブグループと孤立した7住人から構成されて、そのうちの3サブグループは同階の密接な住人クラスターであることを示している。異なる階の外国人の居住者同士や長期居住者同士のつながりは、同階内のクラスターに接続した最も大きな2サブグループを形成していた。多民族の隣人相互交流は、混合用途ビル内の住戸の位置と住戸の用途、住人の民族性、居住期間と関係があることを隣人ネットワークで明らかにしている。

第6章では、香港中心部の湾仔地区における少数民族間の交流の特徴と、これらの交流を生み出す混合用途地区および混合用途ビルの空間の特性について取りまとめ、本論文の研究成果としている。本論の方法により、都市再生のために取り壊しが起こる場合に、多民族の社会生活において相互交流が途絶えることを予測することができ、都市再生過程における社会生活を円滑に移行して行くための開発手段や戦略立案に資することを示して、研究の展望を行っている。

論文審査の結果の要旨

本論文は、少数民族が集住地区を形成するのではなく、混合用途地区や混合用途ビルに多民族が分散して混住している構造をもつ香港の湾仔地区を対象として、多民族の相互交流と都市空間の構造を分析したものであり、得られた主な成果は次のとおりである。

1. 都市に移住してきた少数民族が、集住地区を形成するとされてきた少数民族の都市移住者に関する従来の知見に対して、少数民族が集住地区を形成するのではなく、混合用途地区や混合用途ビルに多民族が混住している構造をもつ香港の湾仔地区の構造を明らかにすることが、社会的に極めて重要な意義を持つことを指摘した。

2. 少数民族の自国民との交流から多民族間の交流を時系列に沿ってヒアリング調査し、交流ネットワークが生まれる空間と多民族の相互交流の関連性分析を行って、湾仔地区の居住地は必ずしもそこに居住する少数民族の交流場所ではないことを示して、西洋の都市における少数民族の居留地の形態とは異なることを明らかにした。

3. 交流の生まれる場所どうしの結びつきの強さと広がりをもつ2分法ネットワークモデルの構造で示して、相互交流では類似した民族や同じ民族でなくても職業などの社会的属性が類似する少数民族の集団では相互交流が生じること、交流場所では湾仔地区における7種類の交流場所同士の関連性を明らかにした。

4. 混合用途ビルディング内では、特定の待遇を受ける長期居住者と新規に移住してきた居住者の交流が生まれにくいこと、混合用途の構成割合や異なる職業の構成割合、賃借人の高い回転率が隣人交流を妨げることを明らかにした。

5. 典型的な混合用途ビルディングの居住者の交流をネットワークでモデル化し、近接マトリックスと階層クラスター分析を用いて、同じ階および階層間の居住者の交流の強さと混合用途ビルディングの空間の関連性を明らかにした。

以上、要するに本論文は、香港の湾仔地区を対象として、多民族の相互交流と都市空間の構造を示したもので、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また、平成17年12月21日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。